

| | |
|------------------|--|
| プラットフォーム の名称 | 地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化 |
| 研究期間 | 平成28年度～令和3年度 |
| 研究支援代表者 | 吉田 憲司（国立民族学博物館・館長） |
| 研究支援代表者 からの報告 | <p><u>（1）プラットフォームの目的及び意義</u></p> <p>本プラットフォームでは、進行中の科研費採択課題実施者を対象に公募を行ない、審査を通過して採択されたプロジェクト（以下、「公募プロジェクト」とよぶ）に対し、当該公募プロジェクトの所蔵する写真・動画資料のデジタル化とデータベース化を支援するとともに必要な肖像権処理を行うものである。このデータベースは、地域研究に関わる基本情報と画像内容のテキスト情報を逐次付加して充実でき、支援期間の終了後も継続的に学術研究の展開に活用できるものとしている。公募プロジェクト側からの要望に応じて、プラットフォーム側が入力作業も支援・実施する。これらの支援を通して、これまで個々の研究者によって私蔵されてきた研究資料画像をプロジェクトの内部での共有化を進め、相互利用を促して公募プロジェクトの研究を進展させるとともに、整備された画像資料を撮影地のコミュニティと共有化することで、地域の記録と記憶の継承を図ることが、本支援事業の目的である。</p> <p>本事業の推進により、各地域における学術調査の成果の蓄積を画像の形で一望することを可能とし、かつその画像資料を歴史的变化が追えるかたちで公開することは、地域研究全体の研究水準の向上に大きく寄与するものである。この事業を通じて、20世紀後半以降の世界各地の状況を伝える、質量ともに比類のないデジタルライブラリが構築され、時空を超えた研究に開かれたオープンサイエンスの基盤が形成されることになる。</p> <p><u>（2）研究支援活動の進展状況及び成果の概要</u></p> <p>本プラットフォームでは、①デジタル化支援活動と②地域研究情報ドキュメンテーション支援活動を行なった。その際、支援活動全体を統括する「プラットフォーム委員会」を設置し、事業の調整運営にあたった。</p> <p>①デジタル化支援活動は、画像資料のデジタル化を進め、データベース・システムの構築とその運用にあたるものである。中核機関である国立民族学博物館と連携機関の国立情報学研究所とが共同して、その作業を進めた。データベースにさまざまな機能を実装させる作業も、公募プロジェクトからの要望をふまえつつ、両機関で実施した。</p> <p>②ドキュメンテーション支援活動は、中核機関の国立民族学博物館とその他の連携機関が共同し、公募プロジェクトの資料調査を実施して、資料の特性に合わせたデータベース項目を整備するとともに、利用許諾の取得もしくは著作権処理を進めたうえで、基本情報と画像内容に関わるテキスト情報の入力支援を行うものである。肖像権を巡る対応も、プラットフォームで支援した。</p> <p>世界のさまざまな地域で撮影された画像を、現在の科研の調査を通じて現地で改めて開示することにより、文化の違いによる画像に対する認識や捉え方の異同が明らかになり、同時に画像を取り扱う研究の倫理的・法的指針を確立することができた。また、撮影時期を異にする写真画像の比較を通じて、世界各地の社会・文化の歴史的変遷が跡づけられ、地域研究の歴史化が図られるとともに、写りこんだ画像から地球環境の変化を追跡することも可能となった。</p> |

| | |
|-------------------------------------|--|
| <p>科学研究費補助金 審査部会における 所見</p> | <p><u>B (プラットフォームの目的に照らして、十分な活動ではなかったが、一定の成果が認められる)</u></p> |
| | <p>本プラットフォームでは、科研費採択課題が所蔵する写真・動画資料のデジタル化とデータベース化の支援を行ってきた。また、それらの作業を実施するに当たり、資料の使用に関する倫理指針や情報公開のためのガイドライン等の整備も進めてきた。デジタル化された資料は、複数の地点・時代における比較分析や研究成果のアウトリーチ活動に活用されるなど、一定の成果があったものと評価できる。</p> <p>一方で、本プラットフォームによる支援が、被支援者の研究のほんらいの目標の達成や成果にどのような付加価値をもたらすのか、支援を行うことが、被支援者独自の研究課題の更なる発展にどのように寄与していくのかといった点が明確になっていない。また、各被支援者が所蔵する画像資料をデジタル化して個別のコレクションを作成しているが、それを全体として検索するなどの機能が備わっておらず、科研費採択者に付与される利便性は限定的である。</p> <p>本プラットフォームにおける応募件数・支援件数はともに十分とは言えず、作成されたデータベースについてもデータ処理や検索機能、公開に際しての肖像権処理の方策等において課題が見受けられる。</p> <p>散逸しがちな貴重な画像資料をデジタル化することの意義や、データベースを構築する取組の重要性は認められるものの、科研費採択課題の支援を目的とする本プラットフォームの活動と、中核機関の本来業務との役割分担を明確に整理することが必要である。</p> |